

アフガニスタンチャリティカレンダー 2009 10月1日発売!



コンパクトでかわいい! 卓上型

***定価 1,000円 (税込)**

*専用コルクボードは翌年も使えます。
*本体カードのみの場合は 100 円エコ割引♪

・専用コルクボード 幅 170mm × 高さ 120mm × 厚み 6mm
・本体カード 幅 160mm × 高さ 110mm フルカラー (ハガキよりひとまわり大きめ)



大きくて見やすい壁掛け型

***定価 1,500円 (税込)**

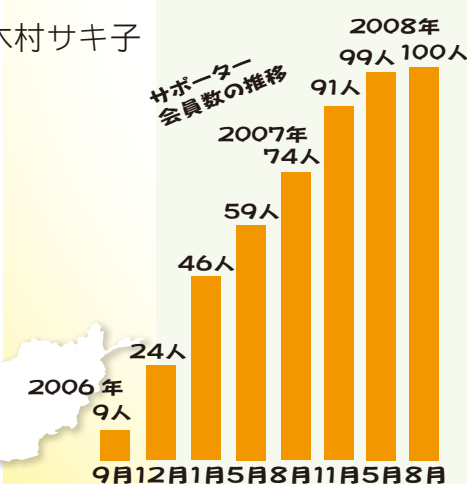
・A2変形版 (見開き縦 560mm × 横 420mm)
・フルカラー

サポーターを募集しています!

会費は1口 300 円/月です。全額がアフガニスタン MMCC に送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年4回、現地の様子を伝える「MMCC ニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポート

**2007 年 12 月 ~ 2008 年 5 月
ご入会のサポーター♪**

木村サキ子



あなたもサポーターになりませんか!?

グッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしての JAPAN-MMCC を継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、日本で見聞きすることはどれも残念なニュースばかりです。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではありません。戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しいものにするた

めに、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさん子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCC をはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしくお願いたします。

理事長: 今川夏如

MMCC ニュースの配布先を紹介してください。

MMCC ニュースの配布先を紹介してください♪このニュースを、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。

NPO 法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。

私たちの活動に賛同し、協力して下さるメンバーを募集しています!

正会員	年会費 1 口 10,000 円	毎月 1 回ニュースをお届けします。活動を支えてください♪
賛助会員	年会費 1 口 3,000 円	毎月 1 回ニュースをお届けします。
団体賛助会員	年会費 1 口 10,000 円	共同企画事業を行います。会員割引の適用が受けられます。
MMCC サポーター	月会費 1 口 寄付 300 円	年4回 MMCC ニュースをお届けします。※全額現地送金。
※メールアドレス	1アカウント 3,150 円/年	
お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com 郵便振替 001 60-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊		

MMCC ニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける!

8 回目のアフガニスタン渡航報告



▲プロペラ機の窓から

朝 4:30 に起きて朝食を食べる。日本時間は午前 8 時。空港に行き特設の国連機カウンターでチェックイン。電光掲示板なんかありゃしないので、その辺にいるおじさんが「ゆ〜えぬふら」とつぶやきながら歩き回ったら搭乗開始。今日の搭乗者は 7 人だけ。小さなプロペラ機のタラップを登り、身体をかがめながら乗り込む。コクピットは丸見え。副機長が英語で酸素ボンベや救命胴衣の場所を説明し、緊急出口の場所を教えてください。プロペラ機独特の音を響かせながらくる〜くふわりと浮き上がり、一達カブールへ。高度数千メートルに達しているであろうほど地上は小さく見えていたかと思うと、目の高さほどのところに切り立った山々が見えたりする。そんな山を越えるところ向かう先に町が見えてくる。カブールの町だ。陸路の場合は、あの山を越えていくんだな・・・と改めて思った。

カブールに着陸すると、いつもの青いターミナルビルの横に、大きな新しいターミナルビルが建設中だ。日本の国旗が掲げられている。これは日本の援助で建設が進められているのだ。その 2 つのターミナルビルを通り過ぎ、小さな小屋の近くで飛行機は止まる。国連機専用のターミナルハウスだ。7 人の入国審査はあっという間。各方面からの国連機関の車が迎えに来ている。私たちは手荷物を持って歩いて出て行

く。一般の空港出入口は国連機関は使わない。だけどそこに向かう。ずいぶん変わった。青空レストランは新しい建物の中に収まっていた。並んでいた屋台も建物の中に。お店のおっさんに携帯を貸してもらってだれが迎えに来ているかを聞いた。やっぱりナワブだ。ナワブは 3 ヶ月も前から、YUKI はいつ来るんだ? 空港にはおれが迎えに行くからね。って毎日のように言いに来ていたらしい。空港からの道路は今までになくきれいに舗装されていた。車の速度を制限するための突起もなくなっていて、とてもスムーズに走れるようになっていた。弊害は、人々が道路を渡れなくなったこと。ちょうど学校の生徒の入れ替え時間で、小さな子どもたちが道の脇にあふれていた。警官が右手で車たちを停止させる。左手は子どもの手を取り、手をつないだ子どもたちがわらわらと道路を横断していく。なんともほほえましい光景だ。子どもたちはわれ先にと警官の手を握っては道路を横断していく。あと気がついたことは、治安維持部隊や国軍、米軍の車両の装甲が厚くなったなということ。要するにごつい車が増えた。

MMCC は相変わらずまるで天国のようだ。子どもたちが自由に遊び回り、それを見守るスタッフはみんな良い奴らだ。今はカルチャーセンターも子ど



▲さっそくチャイでお出迎え

特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊
〒330-0053 さいたま市浦和区前地 2-11-2
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772
発行人 JAPAN-MMCC 代表: 今川夏如
年 4 回発行 (2 月 5 月 8 月 11 月)

2008 年 8 月 15 日 (Vol.7)



▲自由時間の子どもたちの様子



▲来日した 2 人は指導者になった

もたちが少ない時期。メインの活動は地方でのプロジェクト。先週まで、ほとんどのメンバーがヘラートにいた。新しいプロジェクトを作っている。皿回しやディアボロに挑戦している子どもたちの写真があった。日本で見たような光景だな・・・と。夢中になってる顔はなんともおもしろい。来週にはバーミヤンへ行く。別のメンバーは、バダクシャンに向かう。なにより昔からいたスタッフが、ずいぶん成長したのがわかる。みんな私より若い、それぞれのプロジェクトを責任を持って担っている。ハミッドは移動サーカスの総責任者。バーミヤンとヘラートから来ている 5 人は、私たちと同じく事務所に泊まっている。いつもは夜はアフガン人がいなくなるのだが、この数週間は特別だ。ダリ語の勉強をしようと思っていた私にはグッドタイミングだ。夕食は彼らが自炊しているので、ちょっと多めに作ってもらうことに。おわん=コアサ。お皿=プシュコフ。グラス=ピアラ。小玉ネギ=ピアーズ。赤カブ=ムッリィ。赤豆=ルビア。肉=グシュトゥ (牛肉=グシュテガウ。鶏肉=グシュテムルゲ。マトン=グシュテグスファン。) ※正確には、グシュトゥエ ○○で、○○の肉。「エ」は、「〜」の意味。手=パンジャ。足=ポイ。手のひら=カフ。手首=ムチ。足の裏=カフポイ。足首=ムチポイ。1 日目の夜がふけていく。

今川夏如 現地滞在記より

バーミヤンMMCC が、ついに発足！！

車で 13 時間。途中で朝食・昼食の休憩はあるものの、あとはひたすらがたがたと車にゆられている。ちなみに飛行機だと 30 ～ 40 分くらい。また、車で一番早い道なら 6 時間くらい。この道を選ぶ理由は治安のため。アフガン人だけの乗り合いの場合一番早い道を使うこともあるらしい。バーミヤンのスタッフがカブールに来るときその道を使ったそう。ただ、途中の橋を渡るところで、橋の下からタリバンが現れ、「ここは戦場になるからすぐに立ち去れ。行け！行け！」と、で、急いで通り過ぎようとするのだが、反対側からは国軍の車両がわらわらとやってきて、米軍のヘリが飛んできたとか何とかで。自分がねられるわけじゃないが、巻き添えはいやだよなあという感じ。別に真新しいものはない。途中の道路で何カ所か工事をしていた。カブールと違って 1 年間での変化は少ない。朝 6:30 に出発。19:30 到着。

バーミヤンへの出発前日は、夜遅くまでコンテナのペンキ塗り。バーミヤンの拠点になるコンテナは、スタッフが寝泊まりできる可動式のベットやたくさんの収納、可動式ステージが積み込まれており、仮設ステージを併設して、楽屋のように使える構造になっている。外側をすべて真っ白のペンキで塗っており、バーミヤンのスタッフと、20 人の子どもたちが絵を描く。



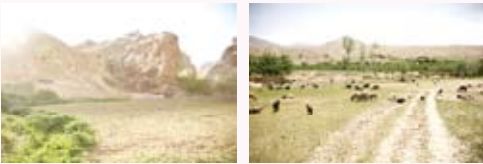
▲深夜の作業。シャフィールと今川



▲飛び上がって喜ぶ子どもたち

MMCC ってなに？初めて聞いたよ？なにをやってるの？という方へ♪

日本のみなさん！初めまして！アフガニスタン MMCC です。わたしたちはアフガニスタンで設立された N G O なので、海外に母体を持っていません。しかし、最初からのメンバーの中に、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議な縁で、日本にたくさんさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかく読んでいただい



▲自然豊かでのどかな幹線道路▲

すべて手作業で！



▲新拠点はでこぼこの荒れ地
なにもないただのでこぼこの土地の上に、たったひとつのコンテナを運び込んだ。土地を平らにならす作業はすべて手作業で。ステージの組み立て、滑り台の設置、その間に子どもたちはトレーニングを行う。コンテナの中からマットをとりだし地面に敷き、そこでアクロバットの練習を。それ以外の子どもたちは思い思いにジャグリングの練習。まるまる一日がかりでコンテナを中心に翌日の公演にむけた準備を進める。宿に戻り、スタッフは延々とミーティング。宿のスタッフから、たのむからそろそろ夕食を食べてくれ。と声をかけられ、夕食を食べる。スタッフミーティングの間に子どもたちは食事を済ませ、歌の練習、演劇の練習に余念がない。なんにしても、バーミヤンの郊外の小さな小さな村から集まった子どもたち。滅多に一緒に遊んだりする



▲舞台の組立、土地をならす▲

バーミヤンMMCCを 支えてください！

バーミヤンMMCCは、まるで公園のように誰でも出入りできます。町の中でなにもしていない子どもたちは、すぐに麻薬の売人など、犯罪の危険にさらされます。夢中になって取り組める「何か」を、MMCCは提供します。どうかみなさんの手でこの取り組みを支えてください。月々 300 円のサポーターにぜひご入会ください。お待ちしております！

るので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれませんか？ニュースを読んでもわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるトモダチになんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています！！アフガニスタンでは大きく次の 4 つのプログラムを行っています♪



▲見違えるほどきれいになった

こともできない。だが、今日は全員がこの宿に宿泊する。すべての準備を終えた後も、子どもたちは思い思いに部屋の中や屋根の上で語り合う。これはまさに「バーミヤンのお泊まり会」だ。とにかく楽しそう。普段会えない子どもたちは、このMMCCを通じて出会い、ともに大きな目標に向かってがんばっている。日本のスモールキャンピング（お泊まり会）はどんなことをしてるんだい？ははは。まさにこんな感じだよ。いつか、日本の子どもたちもカブールの子どもたちも、バーミヤンの子どもたちも、一緒にスモール、いや、ビッグキャンピングをやらうな。とさ。そうだね。いつの日か。また次の夢が生まれた。ここはバーミヤン州の州都、バーミヤン。州都といっても電気もない。それぞれのホテルが小さな発電機を使っているだけ。もう発電機も止まって、電気はない。星の光しか見えない空の下で、子どもたちの話し声だけが聞こえていた。



▲同州の3地区から集まったメンバー

ジャグリング・組体操・竹馬。すべて初体験▼



移動サーカス（モバイルサーカス）

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう！」

麻薬教育プログラム ができあがるまで。



▲プログラムを検討して話し合う▲

アフガンに蔓延する麻薬問題についての教育的な演劇プログラムで、3 つの案が作られ、話し合いを行った。麻薬撲滅ではなく、麻薬を使わせないためになにができるか。新しい演劇プログラムの素案を考えた。1 つは麻薬常習者と、そうでない人を比較できる内容の演劇。2 つめは、麻薬を食べてしまった動物が登場し、それをとりまく人々の物語。3 つめは、麻薬常習者が健康な友人たちの助けによって更正していく物語。子どもたちにも見てもらい、反応を聞く。実際に見るのは子ど

バーミヤンMMCC 発足記念公演



▲会場を埋め尽くした観客

子どもたちによって「コンテナ」は「サーカスハウス」と名付けられた。飾り付けや準備を大急ぎで完了し、9 時から音楽をかける。そして集まる人々。ここ数日ほんの少しだけ宣伝をしてある。町の中で、「どこからきたんだ？」と聞かれ、「日本からだよ。」「何をしてるんだい？」「サー



▲子どもによる衛生教育プログラム

チルドレン・カルチャーセンター

15 の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、叩いたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

も私たちのだから。それぞれ何が良く何が良くなかったか。3 つめのシェーハーンが演じる物語が子どもたちの反応もよく、おもしろくわかりやすい。動きも多く退屈しない内容だというのだ。いくつかでたのは、更正するシーンで、まとっている汚らしい衣装をばっと脱ぎ去って、きれいな服装に替わるのだが、いわゆる「服を脱ぐ」シーンを見せるのは良くないだろうという意見や、きれいな服装やクリーンなイメージに、洋服を使うよりはやはり伝統的なローカルな衣服を用いた方が良くだろうというもの。だが、本質的にこの演劇プログラムでなにを伝えていくべきか。そこの話になったとき、議論は一変する。結局午前中の話し合いでは結論や方向性は見いだせず、午後にもちこした。カブールのような都市部では、このプログラムはわかりやすいかもしれないが、地方に行けば行くほど状況は深刻で、むしろまったく伝わらないのではないかと？地方の村では、けがをしたり病気で痛みを感じる



▲今日の主役は子どもたち。スタッフは舞台裏で歌や効果音の演出を。

カスをしてるんだよ。」と言うと、「おお！あれか！明日やるんだろ！？楽しみにしてるよ。」と。だれもが口をそろえる。たくさんの人々に囲まれ、子どもたちは自信たっぷりにそれぞれ演目を重ねていく。麻薬防止のプログラムは、「ヘルシーライフ」という名前になり、アフガニスタンの美しい自然や草木や花、楽しい歌や踊り、遊び回るシーンからはじまり、麻薬や犯罪、戦争といった負のイメージを象徴する悪魔が登場し、美しくきれいに



▲ヘルシーライフの 1 場面

ワークショップ 実践！実感！実現！

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中での役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。

とき、麻薬を注射したりアヘンを吸飲することで痛みを和らげてしまう。ある種の薬だと勘違いしてしまっている節々であるのだ。なかなか寝付かない赤ん坊や、けがをして痛がっている子どもにアヘンを吸飲させることもよくあること。これらの事態からすると、麻薬常習の状態から更正していく過程というのは、まったくもって意味不明なものになってしまふ。いわゆる常習によって廃人のようになってしまっている人ではなく、当たり前のように暮らしている人々が、生活手段として麻薬を用い、その害や危険性に気づいていなかったり、わかっているにもかかわらず事態を解決する手段を持っていないことが問題なのだ。



▲小道具&地雷回避教育の演劇▲

着飾った人々に魔の手を伸ばしていく。ひとりでは立ち向かうことができないが、みんなで手を取り合って、魔の手を退けていく物語となった。これがMMCC流の演目だ。バーミヤンの子どもたちが、自分たちで最初に創った物語はこうだ。生活が苦しく、お米も高く買えない。油も高く買えない。ひもじくて苦しいだけの人生なんてもういやだ。いっそ死んでしまおう。と自殺しようとする人に手をさしのべる物語。彼らなりに一生懸命考えた。だがどうしてもマイナスからの出発になってしまう。それは子どもたちのせいではないが、それを乗り越えていくことを求められる。プラス思考でプライドを持って自分たちのすばらしい力を自覚し、それを伸ばしていくのだ。とにかく公演はすばらしかった。

最後にバーミヤン議会の議員が挨拶をしてくれた。女性で地元の信頼も厚く、本当に良い人だと誰もが認めている。彼女はまず何よりも驚き、感動していた。そして、何度も何度も感謝の言葉を述べ、この活動がここに根付くことを願い、協力を惜しまないことを約束してくれた。



▲全員でジャグリングを披露

ティーチャートレーニング（教員養成）

長い戦争で教育インフラの 85 % が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっていきます。子どもに興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCC の最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。